

# 第3章 茨木市のめざすべき景観像

## 1. まちづくりの基本理念

茨木市都市計画マスタープラン（平成19年6月策定）では、『「人持ち」でつながる「人カタウン」茨木』をまちづくりの基本理念としています。この都市計画マスタープランは、茨木の良いところを市民と共有しながら、たくさんの方々の参画を得て策定したものです。その中には、将来の土地利用や都市施設の方針、景観形成に関する方針も示されていることから、景観計画における景観まちづくりの基本理念は、以下の通りとします。

### まちづくりの基本理念（茨木市都市計画マスタープランより）

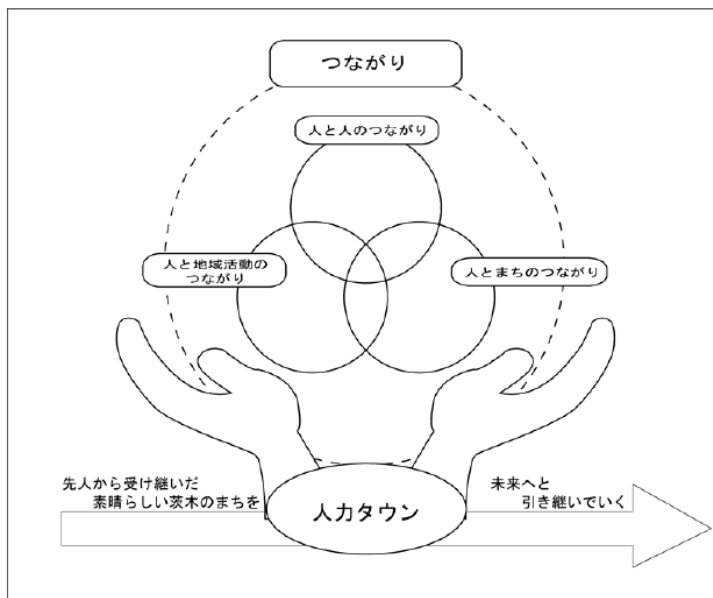
#### 「人持ち」でつながる「人カタウン」茨木

茨木のまちづくりでは、「人と人」「人と地域活動」「人とまち」など、人やまちに関する「つながり」をつくることを大切に考えます。

そのために、基本となる市民一人一人の力を高め、知恵を集め、「人の力」を最大限に発揮できるようにまち（人カタウン）を目指します。

そして、今私たちが住む茨木のまちや資源は、未来の茨木市民から借りているものであると考えて、先人から受け継いだ素晴らしい茨木のまちを未来へと引き継いでいきます。

基本理念の概念図



『人カタウン』とは？

「自分たちで出来ることは自分たちです」という人の力を最大限に発揮できるような環境のあるまち

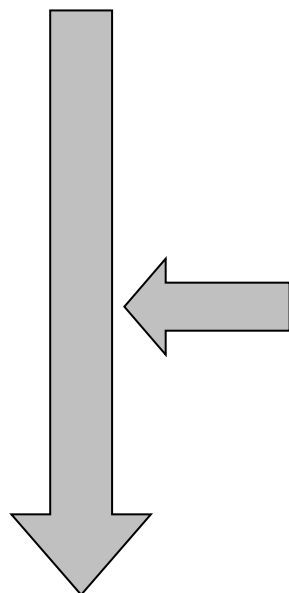
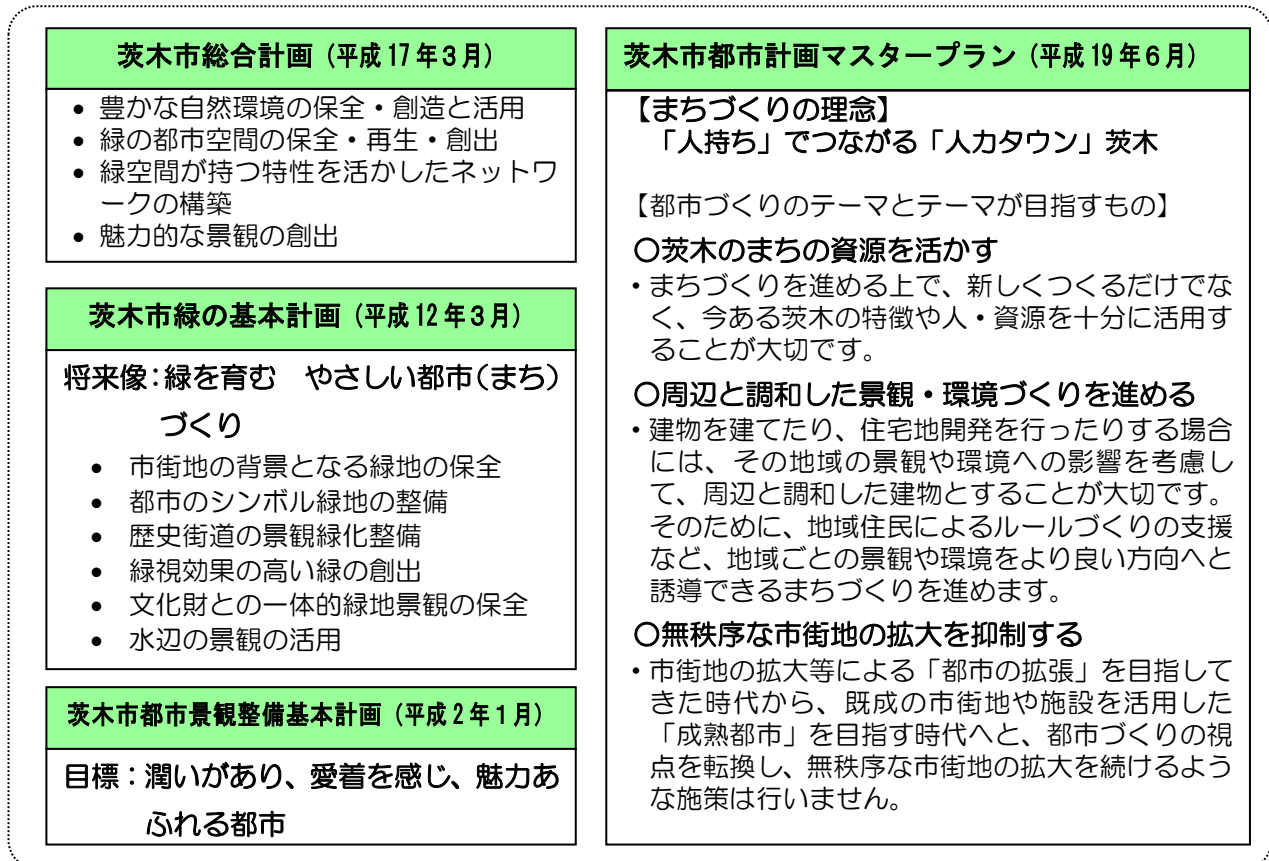
- ◆人らしく暮らす
- ◆本来の力を大切に暮らす
- ◆みんなの知恵を活かして暮らす

#### 【未来へと引き継ぐ大切さ】

今ある茨木は先人が創り、育ててきた大切な宝物であると同時に、まだ見ぬ未来の茨木で暮らす人たちの宝物を借りているとも考えられます。私たちは、そんな今を大切に、さらに良くして未来へ引き継いでいきます。

## 2. めざすべき景観像の考え方

茨木市のめざすべき景観像は、まちづくりの基本理念、関連計画、及び、現況調査やアンケート調査から得られた景観特性を踏まえて設定します。



<p><b>景観特性</b> (現況調査、アンケート調査結果より)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>北部・丘陵地には良好な自然環境が残る</li> <li>安威川、川端通り・桜通り等の線的な自然資源がある</li> <li>椿の本陣や西国街道等、歴史的なまちなみ景観が残る</li> <li>市民アンケートの結果、JR茨木駅～阪急茨木市駅の中心市街地の景観の評価が低い</li> <li>彩都等、計画的に整備された住宅地は、良好な住宅地景観が形成されている</li> <li>平野部の住宅地では駅周辺を中心に高層の住宅地が形成され、その他では低層の住宅地が形成されている</li> <li>南部や国道171号沿いには流通・業務地が形成されている</li> </ul>

**茨木市のめざすべき景観像**

### 3. めざすべき景観像

茨木市は、前述の通り、自然景観、市街地景観、歴史的景観、沿道景観といった多様な景観特性を有しており、それぞれの景観特性が茨木市らしさを形成しています。

例えば、北部の北摂山系の豊かな自然景観や西国街道等の歴史的景観は市民に親しまれ、未来へ引き継いでいきたい資源となっています。また、元茨木川緑地等のうるおいが感じられる景観は、茨木市を象徴するシンボリックな景観として市民に親しまれ、今後も活かしていくべき資源です。

しかし、JR 茨木駅や阪急茨木市駅周辺地域の景観は、市民アンケートによれば市の玄関口としての魅力に乏しいとの評価があり、賑わいや活気を有しながらも、市民の誇りとなる魅力あふれる景観づくりが求められています。

そこで、景観計画では、これまで茨木市や大阪府で取組んできた景観施策を踏まえるとともに、豊かな自然と歴史の中で築き上げられてきた今日の景観を、さらにうるおいや魅力あるものへと高め、先人や隣人に対する心づかいの気持ちを持って、未来に引き継いでいくことを目標に、めざすべき景観像を以下のように定めます。

#### めざすべき景観像

**北摂の自然と歴史に育まれ うるおいと心づかいの感じられるまち いばらき**